

12月進路希望調査集計結果

本日、12月の進路希望調査の集計を配布しました。これは、12月の三者懇談を終えて、みんなに提出してもらった進路希望確定書を、京都市・乙訓地域の中学校で集計したものです。

残念ながら、京都市・乙訓通学圏の“公立高校全日制普通科”への志望状況しか公表されていません。公立高校専門学科や私立高校を志望している人には、直接的には参考にならないかもしれません。公立高校普通科を志望している人は、配布資料の内容をよく理解して、参考にしてください。

内容をよく理解して・・・とは

①前期選抜の倍率は、概ね3～6倍ぐらいです。決して甘くありません。

例えば、洛水高校の前期選抜A方式であれば、

定員200人の15%にあたる30人募集されるのに対して、85人志望者がいる。

⇒ 倍率は2.83倍

⇒ およそ3人に1人しか合格できない ということです。

洛水高校以外の学校でも、同じように見てください。決して、簡単に合格できるわけではないことが、わかるはずです。最後の最後まで、気を抜かず、諦めず、頑張ってください。

②募集定員に対して志望者数が少ない学校がある。

例えば、洛水高校であれば、

募集定員200人に対して、140人志望者がいる。

⇒ 前期で不合格になっても、定員割れしているので中期で絶対合格できる。

⇒ なんて考えるのは甘いです。

というのは、

今回集計されているのは、第1希望をしている人の数です。

つまり、

前期選抜で他の学校・学科で不合格になった人が第2希望で受検する可能性が十分あるということです。

具体的にいうと、

- ・前期選抜で100%募集する学校・学科（桃山・自然科学など）で不合格になった人が、中期にどの高校を志願するか集計に含まれていない。
- ・京都工学院高校などの専門学科が第1志望の人の中で、前期で不合格になった人が、中期は定員の多い普通科の学校に変更することも予想される。

といったことなどです。

一見、定員割れしているように見える学校でも、実際はそうではない学校もでできます。

油断することなく、合格をつかむまで、しっかり頑張ってください。

また、今回の集計を見て、自分の受検する学校より定員に余裕があるように見える学校に、安易に進路希望を変更することはお勧めしません。実際は、定員割れしていないかもしれないですし、変更したからといって、合格するとも限りません。ましてや、一度も見学したこともない学校に変更するという人は、雰囲気のないまま変更して本当に良いのかと思います。

今まで目指して頑張ってきた第1志望の学校を簡単に変更しても良いのでしょうか。変更がだめということではありませんが、保護者の方や担任の先生と十分相談してください。